

J E N E S Y S 2 . 0

中国動物検疫関係者代表団

訪問日程 平成 26 年 12 月 15 日（月）～12 月 22 日（月）

1 プログラム概要

中国国家質量監督検疫総局が派遣した中国動物検疫関係者代表団計 30 名が、12 月 15 日から 12 月 22 日までの 7 泊 8 日の日程で来日しました。（団長：王新武（オウ・シンブ）中国国家質量監督検疫総局動植物検疫監督管司動物検疫処 処長）

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、東京都と茨城県、神奈川県、滋賀県、兵庫県、京都府、大阪府を訪問し、農林水産省や動物検疫機関、食品関連企業、競争馬関係施設等の訪問や交流の場を通して、日本の青年や市民との親睦を深めたほか、日本の歴史・文化等さまざまな視察、参観を通じ、クールジャパンに直接触れ、日本に対する包括的な理解を深めました。

2 日程

12 月 15 日（月）

成田国際空港より入国、オリエンテーション

12 月 16 日（火）

（独法）農畜産業振興機構訪問、農林水産省による講義、歓迎会

12 月 17 日（水）

皇居二重橋見学、茨城県へ移動、日本ハムファクトリー（株）茨城工場訪問・視察、神奈川県へ移動

12 月 18 日（木）

農林水産省動物検疫所本所訪問・視察、滋賀県へ移動、和風旅館での日本文化体験

12 月 19 日（金）

日本中央競馬会栗東トレーニングセンター訪問・視察、兵庫県へ移動、神戸マリンクルーズ

12 月 20 日（土）

日本中央競馬会阪神競馬場訪問・視察、大阪府へ移動、商業施設視察

12 月 21 日（日）

京都府へ移動、嵐山・清水寺見学、大阪府へ移動、歓送報告会

12 月 22 日（月）

関西国際空港より帰国

3 写真

	
<p>12月16日（独法）農畜産業振興機構訪問（東京都）</p>	<p>12月16日 農林水産省訪問（東京都）</p>
<p>12月16日 访问独立行政法人农畜产业振兴机构（東京都）</p>	<p>12月16日 农林水产省讲座（東京都）</p>
	
<p>12月16日 農林水産省による講義（東京都）</p>	<p>12月16日 歓迎会で江田五月日中友好会館会長へ記念品を贈呈する王新武団長（東京都）</p>
<p>12月16日 农林水产省讲座（東京都）</p>	<p>12月16日 王新武団长在欢迎会上向日中友好会馆江田五月会长赠送纪念品（東京都）</p>
	
<p>12月17日 皇居二重橋見学（東京都）</p>	<p>12月17日 日本ハムファクトリー（株）茨城工場訪問・視察（茨城県）</p>
<p>12月17日 参观皇居二重桥（東京都）</p>	<p>12月17日 访问日本火腿工厂株式会社茨城工厂（茨城県）</p>

	
12月18日 農林水産省動物検疫所本所訪問・視察（神奈川県）	12月18日 農林水産省動物検疫所本所訪問・視察（神奈川県）
12月18日 訪問农林水产省动物检疫所总所（神奈川県）	12月18日 访问农林水产省动物检疫所总所（神奈川県）
	
12月19日 日本中央競馬会栗東トレーニングセンター訪問・視察（滋賀県）	12月19日 日本中央競馬会栗東トレーニングセンター訪問・視察（滋賀県）
12月19日 訪問日本中央赛马会栗东训练中心（滋賀県）	12月19日 访问日本中央赛马会栗东训练中心（滋賀県）
	
12月19日 神戸マリンクルーズ（兵庫県）	12月20日 日本中央競馬会阪神競馬場訪問・視察（兵庫県）
12月19日 乘坐神戸 Marine Cruise 観光船（兵庫県）	12月20日 访问日本中央赛马会阪神赛马场（兵庫県）

	
<p>12月20日 日本中央競馬会阪神競馬場訪問・視察（兵庫県）</p>	<p>12月21日 嵐山周恩来記念碑見学（京都府）</p>
<p>12月20日 訪問日本中央競馬会阪神競馬場（兵庫県）</p>	<p>12月21日 参観嵐山周恩来記念詩碑（京都府）</p>
	
<p>12月21日 清水寺見学（京都府）</p>	<p>12月21日 歓送報告会 訪日成果報告（大阪府）</p>
<p>12月21日 参観清水寺（京都府）</p>	<p>12月21日 团员欢送报告会上介绍访日成果（大阪府）</p>

4 参加者の感想

○ 忘れがたく、非常に印象深い訪問だった。

友好の旅でもあった。代表団が訪れたすべての場所で、日本政府、業界関係機関や企業など、各方面からの温かなもてなしを受けた。日本側事務局による送迎から、宿泊先のホテル、レストランの従業員にいたるまで日本人の心からの友好の気持ちを感じ、友情を結ぶことができた。私たちの一人一人が中日友好の使者となり、帰国後は、家族や友人にこうした友好的なもてなしについて伝えたいと思う。

また、学びの旅でもあった。農林水産省や農林水産省動物検疫所本所で働く同業者たちの緻密で真面目な仕事ぶりから学ぶことがあった。とりわけ、輸入動物の検査を行う職員に対する厳しい管理や、病死した家畜を焼却処理するための移動設備などが印象に残っている。動物たちの幸福を守り、毎年定期的に死んだ動物を供養していることも印象的だった。農畜産業振興機構による業界全体の生産・輸出入の管理、日本ハムファクトリーの高度にオートメーション化された厳

しい安全・衛生管理も他では見たことのないレベルの優れたものだった。中国に帰ったら、日本政府や業界関連機関・企業の進んだ経験や互いに協力しあう優れた伝統を同僚たちに学ばせ、研究させることで、中国でも推し進めていきたいと思う。

もちろん、今回の訪日は協力の旅、体験の旅でもあり、日本の政治、経済、歴史、文化などを幅広く理解することができた。私たちのこの経験は、あらゆる分野で中日両国の友好的パートナーシップを促し、中日友好の素晴らしい未来を切り拓く一助となるだろう。

○ 7日間の交流を通して、農林水産省、農畜産業振興機構、農林水産省動物検疫所本所を訪問し、日本の動物検疫の管理や仕組みについてよく理解することができた。同時に、同業者たちとの交流についても、日本の仕事の仕方を学んだだけでなく、互いに理解を深めることができた。将来もし機会があれば、動物検疫の分野でより緊密に協力していければと思う。

訪日期间中、日本の友人たちや随員らとたっぷり交流する時間があった。彼らから日本人の仕事に対する真面目で細やかな向き合い方や、友好の心を感じることができた。

帰国したら、動物検疫という仕事における中国と日本の異なるところや、日本の優れた部分を同僚や友人、家族に紹介し、より多くの中国人に日本を知ってもらいたいと思う。

「JENESYS2.0」事業は真正面から中日交流の入り口を開いた。このような機会に日本を訪れることが出来て大変嬉しく思う。また、より多くの中国の若者にも、このプラットフォームを通じて日本を訪れて学び、中日両国民の間の理解と信頼、パートナーシップを強化してほしいと思う。

○ まず最初に、今回の訪問団に参加できて大変幸いに思う。日本や日本人について知る機会を与えていただき、書物やメディアから受ける情報に限られていた私の認識を押し広げてくれた。深く感謝を申し上げたい。

今回、農畜産業振興機構、農林水産省、日本ハムファクトリー(株)茨城工場、農林水産省動物検疫所本所、JRA 阪神競馬場を訪問し、全面的な知識を得ることができたし、こうした機関の設立経緯や管理理念、仕事内容について理解することができた。なかでも、JRA 栗東トレーニング・センターと阪神競馬場の参観は強く印象に残っている。トレーニング・センターの進んだ環境施設と技術・設備にはとても感心した。日本の馬業界は発達しており、中国も参考にすべきところがたくさんあると思う。競走馬の種の保存に対する努力も誰もが認めるところだ。将来的に中国も馬産業を振興させたいならば、日本から多くのことを学ぶ必要があるため、さらに緊密な交流が進められることを願っている。

帰国したら、日本の美しい環境や、優れた公衆衛生について、皆に紹介したいと思う。整った公共施設、人間本位で設計された設備、発達した地下鉄についても宣伝したいし、日本人の周りで細やかな仕事ぶりや、友好的で温かなもてなしについても話したいと思う。また機会があれば日本を訪れて、さらに理解を深めたい。

○ 歓送報告会の楽しい雰囲気の中で、あっという間に、2014 年末日本への動物検疫関係者交流の活動が終わろうとしている。一週間の参観や交流を通して、私の日本に対する理解に一定の変化が生まれた。

まず、仕事面について。今回の交流では、日本側スタッフの引率のもとで日本の動物検疫関連の施設を訪問し、日本における動物検疫について理解を深めることができた。特に、有名な和牛

の品種の歴史がよく分かった。また、日本人の真面目な仕事ぶり、科学分野における緻密でねばり強い精神には尊敬の念を抱く。

それから、神戸マリンクルーズ、京都、東京などの参観で、日本人の文化、礼儀正しさに感動した。また、日本は地震の多い国だが、粘り強く復興を続けている。この点も中国は手本とし、学ばなければならない。

今回の日本訪問で日本の環境保護の素晴らしさが最も印象に残った。中国は最大の発展途上国として、確実に日本に学ばなければならない。バランスのとれた発展に注視し、環境を保護し、人々の環境保護意識を高め、政府は環境保護への取り組みを強化していくべきだ。

○ 12月16日、独立行政法人農畜産業振興機構を訪問し、「日本の食肉需給動向」と「日本における牛肉の安全性と信頼性確保に向けた取組」について詳しく紹介していただいた。我々に関心のある部分についてたくさん問題を投げかけたが、同機構で働く同業者たちは忍耐強く回答してくれた。その日の午後に農林水産省を訪れた時、受け入れ団体である日中友好会館の職員が、午前中の質疑について、同機構の職員による事実確認を経た結果の正確な解答を教えてくれた。このことはとても印象深く心に残っている。このような日本の同業者の責任感ある細やかな仕事態度やプロ意識は、私たちもよく学ぶべきだ。

今回の訪問を通して、農林水産省、農林水産省動物検疫所本所、農畜産業振興機構、日本中央競馬会（JRA）の基本的な仕組みと、日本の進んだ管理モデル、各部門間のスムーズで良好な協力体制やオペレーションについて知ることができた。日本ハムファクトリー（株）茨城工場の参観で一番心に残ったのは、厳しい管理と強い社会的責任への取り組みだ。製品生産と同時に、子供たちに食品の安全と健康的な食生活に関する考え方を喚起することに力を注いでいる。JRA 栗東トレーニング・センターは施設が先進的で、JRA 阪神競馬場は管理がよく行き届いていた。

帰国したら、友人や同僚たちに、今回の日本訪問で見聞きしたこと、思ったことを伝えたいと思う。日本の自然環境はすばらしく、空気も新鮮だ。それに、インフラが非常に整っている。どこに行っても清潔だ。科学技術も発達しており、商品はどれも進んでいるのに高品質低価格。今回日本で購入した商品を持って帰り、周りの人に試させたいと思う。日本の生活レベルは高く、食品は安全で、味もよく健康的。部門間の協力体制もスムーズだ。それに、日本人は友好的かつもてなし好きで、何事にも周到で真面目に取り組む。田舎や小都市も非常に美しかった。歴史的な問題や生活習慣の違い、考え方の違いによって、中日両国民の間には誤解が生まれやすい。しかし、だからこそ私たちは一層コミュニケーションを密にし、理解し合い、仕事上のパートナーシップや個人的な友好関係を築き上げ、手を取り合って努力しなければいけない。そうすることでやっと、両国関係の平和的友好的な発展を促進できるのだと思う。私たちの未来がより良くなることを願っている。

○ 中国動物検疫関係者代表団の一員として日本を訪れた期間に、印象に残った事柄は多方面にわたる。最も印象的だった主な内容を以下にまとめてみた。

一、細やかな仕事態度、周到なスケジュールリング

今回の動物検疫関係者代表団は、専門性が高く、団員数も多く、視察内容も複雑で込み入っているため、受け入れ団体にとって一連の準備作業は難しいものだっただろう。しかし、期間中、日本側の手配は周到できめ細かいものだったと言える。たとえば、日々のスケジュールは事前に

代表者に知らされ、時間配分にもムダがない。視察のスケジュールはいずれもきっちり組み立てあり、非常に効率良く訪問できた。それと同時に一息つけるゆとりもあり、疲労感はまったく無い。

二、日本の国情に合わせた動物検疫技術と措置

期間中、私たちは動物検疫を管轄する行政機関・農林水産省を訪問し、日本国内における措置や輸出入される動物や動物を原料とする製品の検査について詳しく理解することができた。一番印象的で、中国も学ぶべきだと思ったのは、輸入動物を決められた港で管理するという制度と、輸入リスク分析を行う独立機関の存在だ。これらは中国でも完備すべき検疫制度だと思う。

帰国したら、日本側の熱心なもてなしや美しい環境、先進的なマネジメント経験など、日本滞在中に体験したことや感じたことについて、同僚たちと話し合い、友人や親戚に伝えたい。そうすることで、周囲の人々の日本に対する理解を深め、中日両国民の代々にわたる友好を促進したいと思う。